

重要取組シート 健康福祉局 健康部 健康推進課

取組項目	特定健診・がん検診の受診率向上
現状・課題	特定健診は平成20年「高齢者の医療の確保に関する法律」により保険者に実施が義務付けられている。堺市の国民健康保険加入者の受診率は令和4年度は29.4%であり、大阪府平均と同水準であった。しかし、特に生活習慣の改善が効果的な就労世代（40歳から64歳）の市民の受診率が低いことが課題である。 また、特定健診の未受診の理由としては、「令和4年度堺市市民意識調査」では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」（36.0%）、「時間がとれなかったから」（19.2%）、「面倒だから」（18.7%）、「知らなかったから」（5.0%）となっている。 ハガキ勧奨などを継続してきたが啓発方法が形骸化していたため、令和3年度からAIを用いた個別特性に合った受診勧奨の実施を開始し令和6年度も継続する。 がん検診は健康増進法に基づき実施しており、平成28年度以降、市、保健センター、がん診療拠点病院、医療機関、学校、患者会などと連携し啓発を行ってきた。胃がんリスク検査の導入や胃・肺がん検診を地域の身近な医療機関で受診できる体制整備を行った。 平成29年度には、前立腺がん検査（PSA検査）の開始に加えて、受診勧奨・相談・集団検診の予約を一元的に行えるがん検診総合相談センターを設置し環境整備を行った。 さらに、平成30年度からの2年間で「受診促進強化期間」と位置づけ、胃、肺、大腸、子宮及び乳がんの検診に係る自己負担金無償化を実施した。 令和2年度から2年間は、この5つのがん検診の自己負担金無償化の延長と胃がんリスク検査・前立腺がん検査についても自己負担金を無償化とした。 無償化の実施以降、がん検診受診率は向上していたが、令和2年度からの新型コロナウイルス感染症拡大による受診控え等の影響で低下したため、令和4年度、令和5年度は、低下した受診率を取り戻すため無償化を延長した。令和6年度も自己負担金無償化を継続する。 自己負担金無償化と合わせて、啓発を強化し、受診率を更に向上させる必要がある。
取組みの内容	○特定健診の受診促進 ・過去の受診履歴等をAIを活用して分析し、個人の行動特性に応じた個別勧奨通知等（ハガキ、SMS）を実施する。 ○胃・肺・大腸・子宮・乳がん検診、胃がんリスク検査・前立腺がん検査の受診促進 ・自己負担金の無償化と合わせて、検診の重要性を啓発することで、今後の定期的な受診につなげる。また、無償化の効果等を分析する。 ・がん検診対象者への個別勧奨通知等を実施する。 ・がん検診受診票発行業務について電子申請化する。 ○特定健診・がん検診の周知啓発手法の工夫 ・特定健診とがん検診を合わせて周知する。 ・「堺市けんしん総合サイト」の機能等を充実させる。 （フリーワード検索機能の追加、WEB予約対応医療機関の掲載等） ・企業等と連携した啓発を実施する。

スケジュール	前期 (～7月)	☐ 広報さかい、SNS 等による自己負担金無償化の周知（4月） ☐ 企業と連携した特定健診・がん検診啓発の実施（6月～） ☐ がん検診受診勧奨（7月） ☐ がん検診無償化の効果等の検証（7月～） ☐ 堺市けんしん総合サイトの機能強化（7月）		
	中期 (～11月)	☐ 特定健診・がん検診に関する次年度に向けた勧奨計画の策定（8月） ☐ がん検診受診票発行の電子申請開始（9月） ☐ 特定健診・がん検診受診勧奨（9月～） ☐ 特定健診・がん検診啓発強化月間の実施（10月）		
	後期 (～3月)	☐ 特定健診・がん検診受診勧奨（1月～）		
	次年度 以降	☐ がん検診無償化期間中に獲得した新規受診者に対して、継続受診を促す勧奨を計画的に実施する。 ☐ これまでのがん検診や特定健診未受診者に対する受診を促す方法について検討実施する。		
進捗の状況	前期 (～7月)	☐ 広報さかい、SNS 等による自己負担金無償化の周知（4月） ☐ 企業と連携した特定健診・がん検診啓発の実施（6月～） ☐ がん検診受診勧奨（7月） ☐ 堺市けんしん総合サイトの機能強化（7月）		
	中期 (～11月)	☐ がん検診無償化の効果等の検証（8月～） ☐ 特定健診・がん検診受診勧奨（9月～） ☐ がん検診受診票発行の電子申請開始（10月） ☐ 特定健診・がん検診啓発強化月間の実施（10月） ☐ 特定健診・がん検診に関する次年度に向けた勧奨計画の策定（10月）		
	後期 (～3月)	☐ 特定健診・がん検診受診勧奨（1月）		
2025 堺市基本計画	該当する 施策	2.人生 100 年時代の健康・福祉～Well-being～ 健康で長生きできる都市の実現		
	寄与する KPI	特定健診受診率	目標値（2025 年度） 50%	
未来都市計画 堺市SDGs	最も貢献する SDGsのゴール	ゴール番号 3	すべての人に健康と福祉を	
	寄与する KPI	特定健診受診率	目標値（2025 年度） 50%	